



令和4年9月22日

川西町議会議長 鈴木 幸 廣 殿

川西町議会広聴広報常任委員会
委員長 橋 本 欣 一

閉会中の所管事務調査先進地視察調査報告について

令和4年第2回川西町議会定例会において許可された所管事務調査について、
別紙のとおり報告します。

令和4年度 広聴広報常任委員会先進地視察調査報告書

- 1 期 日 令和4年7月27日(水)～28日(木)
- 2 視察先 ①埼玉県比企郡小川町議会
日 時：7月27日(水) 午後1時30分～午後3時30分
住 所：埼玉県比企郡小川町大字大塚55番地
電 話：0493-72-1221
②埼玉県大里郡寄居町議会
日 時：7月28日(木) 午前9時30分～午前11時30分
住 所：埼玉県大里郡寄居町大字寄居1180番地1
電 話：048-581-9995(直通)
- 3 参加者 川西町議会広聴広報常任委員会
委員長 橋本欣一 副委員長 遠藤明子
委 員 伊藤進 寒河江司 井上晃一 以上5名
- 4 調査内容 議会だより編集、広聴活動等

5 先進地視察調査報告

◇埼玉県比企郡小川町議会

①視察地の概要

小川町は、明治22(1889)年に成立した小川町・大河村・竹沢村・八和田村の1町3村が、昭和30(1955)年に合併された。面積60.36km、人口28,412人、世帯数13,056世帯。埼玉県のほぼ中央に位置し、中心地は周囲を外秩父の山々に囲まれた小川盆地で、中央には荒川の支流、槻川が流れている。低地を中心に市街地や豊かな田畑が広がるなど、河川と盆地によって形成された町である。

②視察対応者

小川町議会広報発行特別委員会	委員長	高橋	功人
同	副委員長	田中	照子
同	委員	高瀬	勉
同	委員	笹本	孝幸
同	委員	五十嵐	康博
同	委員	稲村	壤治

同 小川町議会議長 山口 勝士
同 議員 高橋さゆり(夫が川西町出身)
同 議会事務局 岸澤 均・関口 雅之

- ③視察内容 ◎議会だよりの編集について
◎議会広聴活動について

【質問事項】

- Q1 住民登場の場で意見聴取のやり方と担当はどのように決めますか。
- A. 住民登場に1回で協力を得ることはむずかしい。何人もの人に声を掛けている。「記念になるよ」「〇〇さんのご紹介で」などハードルを上げない。顔写真NGの場合は、似顔絵(アバター)を登場させるなど工夫をして多くの住民に登場してもらっている。意見聴取では、全地域(76行政区)があり、地域の特徴やバランスなど考慮し紙面に生かしている。
- Q2 迫力ある紙面ですが、レイアウトはどのように工夫されていますか。
- A. 編集委員会を3回実施している。特集については毎号工夫する。貼り付けは最初担当が行い、その後プロ(委託業者)のデザインの校正(2~3回)手を加える。表紙に町民の笑顔と一生懸命な姿をテーマとした顔写真を載せ、手に取って貰えるように力を入れている。また、2~3ページの見開きに最重要ポイントの記事を載せている。わかりやすい表現を心がけし、一般質問は議員3人で2ページを基本としている。
- Q3 より会議の内容を知ってもらうために、紙面以外の工夫について教えてください。
- A. QRコードで動画が見られるようにしている。全議員が町民取材を行い、協力体制を構築している。写真は各々で対応し、カメラと携帯の両方を持参し、写真を撮る場合は3方向から必ず撮ることとしている。
表紙の写真などは撮った中から全員で選んでいる。
「議員の聞く×つなぐ」のコーナーでは町民アンケートを実施し、議会報に興味を持ってもらえるように環境づくりをしている。
- Q4 広聴活動として、住民との意見交換会や議会報告会の開催がございましたら開催方法及び住民の反応を教えてください。

A. 意見交換会は実施していないが、議会報に多くの町民が登場することによって、議会への感心や読者が増えた。議員が町中に出向いてインタビューしたり、意見を聴いたりすることが定着してきた。最初はインタビューもなかなか受けてもらえず苦勞したが、今は積極的に登場してくれる。ハードルを上げないことが大事で、簡単なコメントや感想などをまとめ編集している。写真 NG の人はアバターにすることで若い人や女性でも登場しやすいようになってきた。

議会だよりは活性化していると手ごたえを感じている。編集作業は苦勞が多いが議員が活動する姿を町民が目にすることで熱意が伝わり、議会だよりを読み理解して頂いている。

◇埼玉県大里郡寄居町議会

①視察地の概要

寄居町は、埼玉県の北西部、荒川が秩父山地から関東平野に流れ出すところに位置する町で、町域は東西約 14 km、南北が約 12 km で、面積は 64.25 km² です。地形は西部の山地、東部に開けた平野部からなっている。さらに西から東に流れる荒川によってつくられた河岸段丘による起伏のある地域や、北部の利根川流域となる台地上の地域等、複雑な地形にある。昭和 30 年 1 町 4 か村が合併して現在の寄居町となり、2 本の国道と 3 線の鉄道・8 つの駅がある。彩の国資源循環工場や大手自動車メーカー四輪車生産工場が建設される等発展を続けている。全国名水百選等に認定され、水環境にも恵まれた町である。

人口約 32,000 人、世帯数約 14,800 戸

②視察対応者

寄居町議会広報広聴特別委員会	委員長	鈴木 詠子
同	副委員長	笠原 則夫
同	委員	田母神節子
同	委員	原口 孝
同	委員	大澤 博
同	委員	保泉 周平
同	寄居町議会議長	津久井康雄
同	議会事務局	福地 泰士

③視察内容 ◎議会だよりの編集について

◎議会広聴活動について

【質問事項】

Q1 住民登場の場で意見聴取のやり方と担当はどのように決めますか。

A. 1回に10人~20人は登場させている。時間がないと広聴活動ができない。ラフレイアウトは何回も変わる。町民の声を大事にたくさんの人に取材をする。編集に狙いをつけたコメントを心がけ、町民側から応えやすい表現を意識して対応している。また、正副委員長の打合せ会で編集会議に提示する原案を作成し、第1回目の編集会議で担当者一覧を検討している。常に町民が興味を持つ記事を意識しながら掲載することや、担当者を決めている。

Q2 迫力ある紙面ですが、レイアウトはどのように工夫されていますか。

A. 表紙は重視し、インパクトのあるものを意識している。記事は議員が集めてくるが、委託業者の協力でインパクトのあるレイアウトになっている。議員の一般質問は優先順位では重視していない。議会として町民の関心が高いと思われる議案等に優先順位をつけ掲載している。

Q3 より会議の内容を知ってもらうために、紙面以外の工夫について教えてください。

A. 議員から町民へ、町民と話しができる広聴活動を意識している。また、政策サイクルを意識し、予算がどのように生かされ反映されたか等、町民から生の意見を聴き、記事にしていく。予算執行がより良いものか等、町民と議員間の合意形成が大切である。議員が1つにまとまるため、全員協議会場で議長から協力を促してもらっている。

Q4 広聴活動として、住民との意見交換会や議会報告会の開催がございましたら開催方法及び住民の反応を教えてください。

A. 要望や陳情になるので、テーマを決め意見交換会を行っている。チーム議会となって対応するが、班編成の中に1人の議員が入り、ワークショップ方式で意見の集約をしている。

6 総括

小川町議会広報発行特別委員会における議会だよりの紙面づくりは、イン

パクトがあり若者にも手に取って貰えるような斬新な表紙で、ページをめくれば、見やすく読みやすい工夫が感じられる。分かりやすい文章、町民登場が多く、議会報であることを忘れさせる思い切った意識紙面づくりに圧倒された。ラフレイアウトづくりも委託業者との連携があることは大きな強みである。隣町の寄居町議会を意識しながら、切磋琢磨しながら常に向上心を持ち、町民目線の議会だよりを目指していた。

読者を増やしていくには、紙面づくりのスキルを磨くとともに、多くの町民に登場してもらい、政策に対する意見を聴くなどの特集なども必要なのではないかと感じた。

寄居町議会広報広聴特別委員会では、「読まれない議会だよりに出す意味なし！」日本一クオリティの高い議会だよりを目指し編集する基本姿勢にこだわる。全国町村議会議長会広報コンクールの上位入選は常連であり、平成29年度から4年間連続1位の最優秀賞を獲得、令和3年度は惜しくも2位受賞と、常に安定した編集技術で、内容の充実、評価の高い議会だよりである。

編集技術は一人ひとりの向上心からくるもので、最終校正まで編集作業に手を抜かない。町民の心情や関心をキャッチする能力にたけていると感じる。3回の編集会議で校正が全て終了する手際の良さに驚いた。取材力=広聴力=議員力に繋がると委員長は言う。取材がしっかりしていると、内容も充実する。顔写真、名前、コメントは3点セットで基本としている。町民の理解と信頼関係が大切とあらためて感じた。

当議会も、委員同士のスキルを磨くとともに、常に向上心とチャレンジ精神を持って今後も望んでいきたい。また、これまでの報告型の議会だよりから一歩前進した新たな企画で、多くの人に読んでもらえる議会だよりを目指していきたい。この度の視察は大変有意義で実り多い研修となった。